

銅賞 佐藤 友紀君

北海学園大学工学部建築学科 ゆるやかにそそぐイチバとともにー

小樽の妙見市場は戦後、樺太や満州からの引揚者により川の岸にバラック店舗をつくり商いを始めたのがはじまりである。それから70年余り小樽の台所のひとつを担ってきたが、街の高齢化と過疎とともに市場の経営者自体も高齢化や後継者不足となり、縮小が強いられている。この市場に再び人が集まる新しい拠点にすべく計画が本案である、川の上に建つ市場としての現市場を新しいスタイルとコンセプトで再生したものであり、やわらかでうねるような建築空間が川の上を這うように展開している。現市場にはない親水空間などにより川との関係も生まれ場所性が最大限に表現され、新しい息吹と鮮度を感じさせる興味深い秀作となっているが、全体にもう一つリアリティーが不足しており心残りである。

(文責：小西 彦仁)

